

平成27年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	やや少	やや少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや多 並	やや多 並
トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	並	並
たまねぎ	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	やや多	やや多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	やや少	やや少
	ハダニ類	やや多	やや多
ブロッコリー	黒腐病	並	並
	べと病	並	並
	コナガ	多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.6%(1.3%)、発生圃場率は33.3%(25.0%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.8%(3.1%)、発生圃場率は16.7%(41.1%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.2%(1.5%)、発生圃場率は8.3%(21.6%)であった。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.5%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

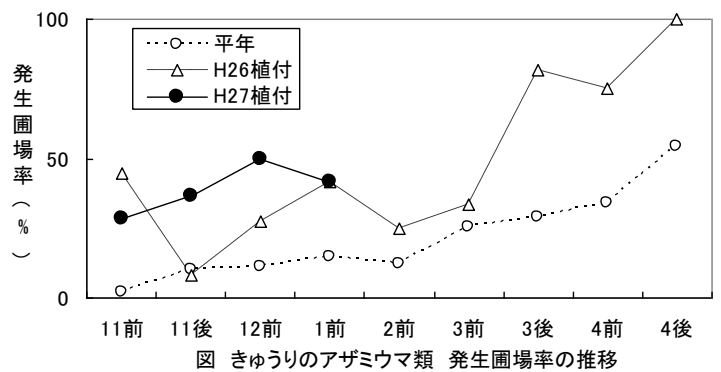
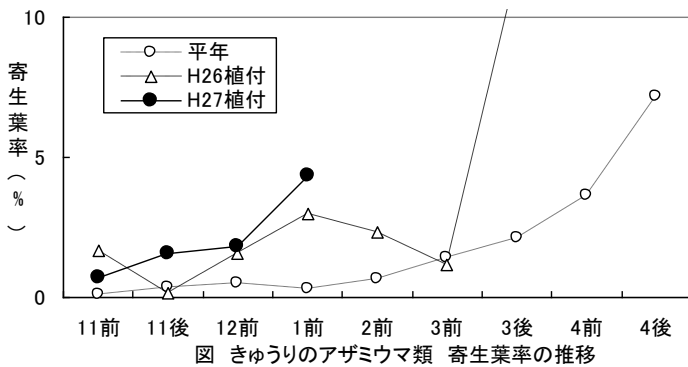
6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は4.3%(0.3%)、発生圃場率は41.7%(14.5%)で、一部で多発圃場がみられた。



(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.0%(1.0%)、発生圃場率は41.7%(26.9%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.0%(0.3%)、発生圃場率は8.3%(21.9%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、果実では発生を認めなかった(発生を認めない)。葉での発病葉率は0.6%(前年0.2%)、発生圃場率は25.0%(同16.7%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.7%(過去5年平均0.4%)、発生圃場率は41.7%(同23.3%)であった。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は6.7%(0.6%)であった。

2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は18.5%(10.6%)、発生圃場率は60.0%(51.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.2%)、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は7.4%(6.5%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は11.1%(5.2%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.1%、発生圃場率12.7%)。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は5.9%(4.3%)、発生圃場率は44.4%(38.4%)であった。

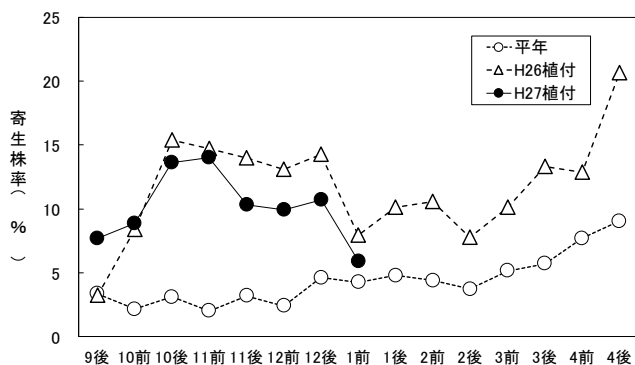


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
 平均: H17~H26の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H26の平均値

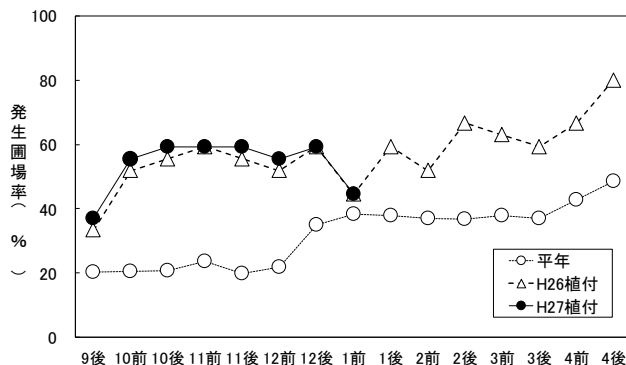


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
 平均: H17~H26の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H26の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすく、農薬が葉裏まで十分かかりにくいいため注意する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。
- ウ 薬剤感受性低下の恐れが少なく、天敵に影響の少ない気門封鎖剤を活用する。なお、これらの薬剤は卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は3.8%（過去8年平均4.5%）、発生圃場率は41.7%（同12.4%）であった。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は0.2%（過去8年平均1.0%）、発生圃場率は8.3%（同2.6%）であった。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は18.0%（過去8年平均1.9%）、発生圃場率は91.7%（同14.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。

【参考】

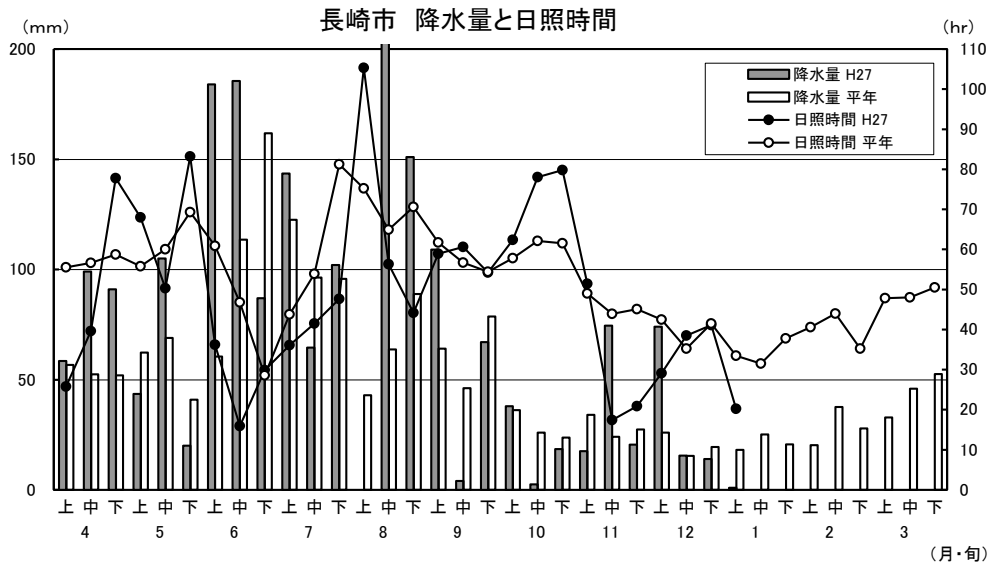
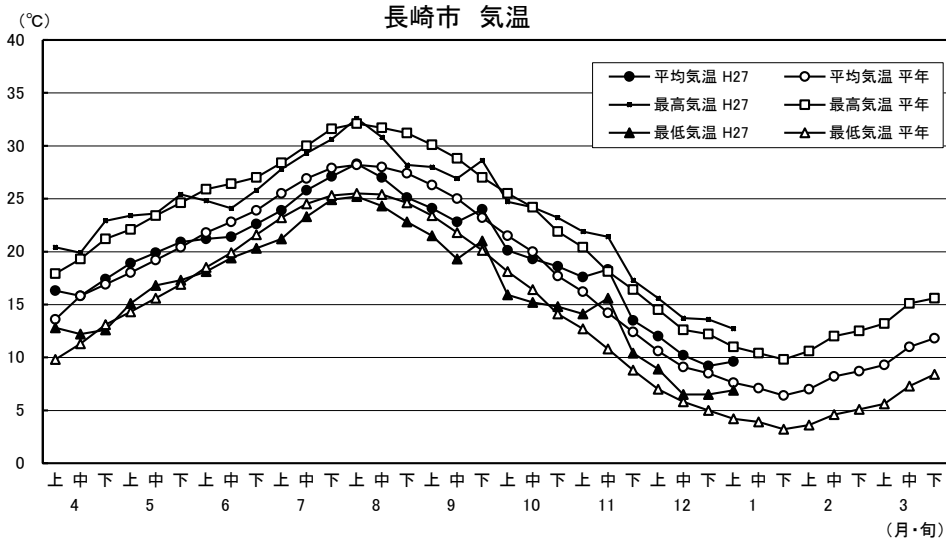
気象 (平成28年1月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	30	20
降水量	30	40	30
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

平成27年度の気象経過 (長崎地方气象台)



○病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

